

オピニオン「オープンカレッジ」

国際文化学部柴崎全弘准教授の

「表情の読み取り方に見る文化差～日本人は目 欧米人は口～」が掲載

●中部経済新聞 2018年4月18日(水)



しばさき・まさひろ 比較認知
科学。名古屋大学大学院情報科学
研究科単位取得退学。博士（情報
科学）。1977年生まれ。

A black and white portrait of a man with short, dark hair and glasses. He is wearing a dark suit jacket over a light-colored, patterned shirt. The photo has a grainy, printed quality.

名古屋学院大学
国際文化学部准教授
柴崎 全弘

日本人は目
歐米人は口

か見らるのなうか？
顔を見ているときの視線
の動きを分析した研究によ
ると、欧米人は口に注目し、
東アジアの人々は目に注目
することが示されており、
この違いがサングラスを脳

こく幼いころから自分が育った文化に特有の認知システムを身に付けるようだ。ではなぜ歐米人は口、東アジア人は目に注目するようになったのだろうか？ これには、個人主義の文化と集団主義の文化との違い、言い換えるなら自己主張することが肯定される文化と自己主張を控える文化との違が推奨される文化との違いが関係していると考えられる。本来、口は動きの大きいパーツで目立ちやすく、感情を読み取るのに適した器官であるが、その反面、

このような文化差はSNSで使用される絵文字の選び方にも表れている。東アジアの国々では、「(ー)」や「(ーー)」のように目の形を変えて感情を表現することが多いのに対し、欧米では「(ー)」や「(ーー)」のように口の形を変えることが多いのである。

集団主義から個人主義へと変化しつつあることが指摘されているわれわれ日本人であるが、今後は表情の読み取り方も少しずつ欧米流に変化していくのだろうか?

本格的に花粉の飛ぶ季節となり、街はマスク姿の人々で溢れている。われわれ日本人にはお馴染みの光景だが、歐米からの外国人観光客の目には不思議な光景に映るらしい。日本人とは違つて欧米人は風邪予防や花粉対策のためにマスクをする習慣がないそうである。

一方で、サングラスをしている外国人観光客の姿はよく見かけるが、サングラス姿の日本人は少數派である。なぜこのような文化差

表情の読み取り方に見る文化差

ジア人にとつては、相手がマスクをしていても気にならないが、サングラスをしていると不都合が生じる。ところが口に注目する欧米人にとっては、サングラス姿の人よりもマスクをしている人とのコミュニケーションに困難を感じることになるのである。

最近の研究によると、表情の読み取り方の文化差は7歳以前の子どもにも見られることが確認されており、親や周囲の人々との「ミュニケーションを通じて

眼輪筋は意識的な制御が難しいとされており、たゞでは眼輪筋の動きに大きな違いが表れる。「目が笑つてない」という指摘は、眼輪筋が動いていないということなのである。

以上のことから推測するど、自分の感情をストレートに表現する個人主義の文化圏に暮らす人々の場合、最も感情の表れやすいパーソンは口となるため、相手の顔を見るときは自然と口に注意が向かうようになる。一方で、周囲との調和を図

オープン
カレッジ